

割れしのぶ

お吹く鬘の前後を割り、鹿の子を覗かせた可愛い髪型。京都の舞妓の髪型としても知られている。舞妓になりたての1〜2年の間は、この割れしのぶ（割りしのぶ）を結う。花びらの下がりの付いた花かんざしを飾り、赤い鼻緒に鈴付きのおこぼ（ぼっくり・こっぼり）を履く。年少舞妓の頃だけの特権。

サイズ約 22cm 制作／高森春恵

割れしのぶは江戸時代末頃、京都で結われていたらしいが、はっきりしたことは分かっていない。菊の花づくしで飾った華やかな割れしのぶ。

歌舞伎や芝居に出てくる舞妓は、割れしのぶを結うことが多い。誰も知っている舞妓といえばこのスタイル。

裾引きという、裾の長い振り袖にだらりの帯。ぽっちり（帯留め）など、その豪華な衣裳は歩く工芸品といわれる。

